

2011 年 11 月 8 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 石田 健一

インド国 DCR 超臨界圧石炭火力発電所建設事業
(有償資金協力)
環境レビューに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2011 年 10 月 28 日（金）14:00～17:00
- ・ 場所：JICA 市ヶ谷研究所（会議室：2 階 201AB 会議室）
- ・ ワーキンググループ委員：石田委員、岡山委員、田中委員、松下委員
- ・ 議題：インド国 DCR 超臨界圧石炭火力発電所建設事業（有償）環境レビューについての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 事前配布資料「環境レビュー方針」
 - 2) 環境影響評価（EIA）報告書（英文）
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 18 回委員会）

- ・ 日時：2011 年 11 月 4 日（金）15:30～18:30
- ・ 場所：JICA 本部（会議室：229）

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

環境影響

1. 石炭輸送のための鉄道整備に伴う環境影響を考慮するよう申し入れること。

汚染対策

2. 土壌分析の結果において、プロジェクト敷地内で相対的に高い分析値を示した項目がある理由を確認すること。
3. 灰捨て場からのスラリーに伴う汚水処理方法を確認すること。
4. 工事中の粉塵、騒音、廃棄物などに関し、問題が生じないよう適切な対策をとるよう提案すること。
 5. 既存の発電所設備も含め、発電施設からの工程排水、生活排水、雨水排水の処理方法について確認すること。
6. 発電所からの放流水の排出基準について確認すること。
7. 既存の発電所からの排ガスの SO₂・NO₂ の分析結果を確認すること。
8. 粉塵等による大気汚染対策として、飛散防止低減システムが提案されているが、具体的な対策の内容を確認すること。
9. 同じサイト内にある既存石炭火力発電所から排出される焼却灰 (Fly Ash 及び Bottom Ash) の組成について、分析結果を確認すること。
10. 焼却灰の処分方法として、レンガ・セメント・コンクリート等への再利用、スラリー化して灰捨て場に廃棄するとの対策が示されているが、こうした再利用等により環境汚染が生じないように、必要な措置を講じるよう提案すること。

自然環境

11. グリーンベルトの植栽・管理については、将来的には生態系サービス機能を生かすことを考慮して行うこと。

社会影響

12. 本事業の実施により、i) 農業、ii) 需要パターンの変化、iii) 雇用、iv) 購買行動の変化、v) 教育、vi) 健康の各分野で想定される正の効果について、CSR 事業等の過去に実施された事例を含め、具体的な関連が明確に見出せるように記述すること。
13. 貧困層及び地元住民を優先的に雇用するための措置を申し入れること。
14. 地元住民を雇用するための教育訓練の機会を設けるよう申し入れること。

環境管理計画 (EMP) ・ モニタリング

15. モニタリング地点、頻度、方法、基準を超えた場合の対処方法等を明記した環境管理計画を作成し、大気、水質、騒音、土壌環境に関する適切な環境モニタリングを実施すること。
16. 灰捨て場からの環境汚染 (大気・飛散・汚水による水質汚染、地下水汚染、土壌汚染) を防止するために、基準にしたがって施設管理を行うこと。また適切な環境モニタリングを実施するととも

に、汚染(基準超過)が生じた場合の対処方法を検討しておくこと。特に既存の灰捨て場も含めて、適切な遮水対策について確認すること。

ステークホルダー協議について

17. 社会経済調査の結果が、ステークホルダー協議でどのように生かされたのか確認すること。
18. 過去及び今後予定されるステークホルダー協議において、参加者が公平な参加を担保するための方策について確認すること。

以 上